

心臓CT検査における造影剤及び検査前投薬に関する説明書

1. CT検査について

(1) 検査の方法とその特徴

心臓CT検査とは、コンピュータと放射線（エックス線）を使って、心臓や冠動脈の断層画像を作成する検査です。患者さんには、細長い検査台の上に横になっていただき、短いリング状の装置の中を検査台が動く間に撮影します。検査中は呼吸を一時的に止めて頂く場合がありますので、検査室の声の指示に従ってください。

(2) 放射線による影響

通常的心臓CT検査では、検査を受ける人に、放射線による影響はほとんどないと考えられていますが、ご心配の場合は、主治医・放射線科医・検査担当医にご相談ください。尚、妊娠中や妊娠している可能性がある場合には、胎児への影響が明らかではないため、本検査をご遠慮いただいております。

2. 造影剤について

心臓CT検査では、造影剤という検査薬を使用します。まれですが、造影剤の副作用が生じることがあります。

(1) 造影剤とは？

CT用の造影剤はヨード製剤でいくつかの種類があります。診断にあたって情報量を増やすために画像にコントラスト（色調の強弱）をつける検査用の薬です。

通常、静脈注射で使います。

(2) 造影剤を使う利点

冠動脈・心筋の血流状態や病気があった場合にその特徴がわかり、画像診断上、重要な情報となることがあります。また、造影剤を使わなければ病気を見つけることができないことがあります。

(3) 造影剤で副作用が生じる危険が高い状態

アレルギー体質の方は副作用を生じる可能性が約3倍高く、なかでも気管支喘息の方は約10倍といわれています。また、腎臓の機能が低下している方にCTの造影剤を使うと、腎機能を悪化させることがあります。さらに、ある種の糖尿病の薬の副作用が出やすくなる場合があります。

(4) 造影剤の副作用

副作用の頻度は、軽症なものを含めて約3%といわれています。造影剤の副作用は、検査中や検査直後に生じるもの（即時性副作用）と検査後数時間から数日後に生じるもの（遅発性副作用）とがあります。また、検査中から検査後数日の間に注射部位が腫れたり、炎症を起こしたりすることがあります。

3. 検査前投薬について

検査当日、あなたが受ける心臓CT検査では、ベータ遮断薬という薬を使用することがあります。

(1) ベータ遮断薬とは？

ベータ遮断薬は、自律神経の働きを抑え心拍数を下げ心臓の動きを抑えると同時に、血圧を下げる効果もあり、高血圧や狭心症などの治療に広く用いられている安全性の高いお薬です。

(2) ベータ遮断薬を使う利点

心臓 CT 検査において、心臓の動きが早すぎると、画像がぶれて十分な検査を行えない恐れがあります。そのため、心拍数を下げ心臓の動きを抑えて、診断に必要な綺麗な画像を得るためにベータ遮断薬を使用します。

(3) ベータ遮断薬の投与方法

検査予定 1 時間半前に、来院していただき、心拍数や血圧を測定します。その後、医師の指示で内服薬（セロケン 20mg）1 錠を検査 1 時間前に内服していただきます。内服で十分に心拍数が低下しない場合、静注薬（インデラル等）を投与することがあります。

(4) ベータ遮断薬により起こりうる副作用

ベータ遮断薬の副作用としては、過度に脈が遅くなったり、血圧が低下したり、心不全が生じるなどの循環器系の症状、めまい・けん怠感・眠気・頭痛等の精神神経系の症状、発疹等の過敏症状、息が苦しくなるなどの呼吸器系の症状、吐き気などの消化器系の症状等が生じる恐れが僅かながらもあります。